

H25-①「身近な公園の防災機能」に関する調査研究

調査項目 「身近な公園の防災機能」に関する調査研究

調査年次 平成25年度（9次調査）

目的

東日本大震災の発生以降、公園の持つ防災機能への関心が一段と高まっており、今後さらに市民に身近な公園（住区基幹公園）での防災機能強化が求められる場面が増えてくると考えられる。また開発提供公園など市街地の狭小公園については、使用頻度が減り管理が困難になっている状況があり、これまでの幼児用の遊具中心の公園から別の用途への転換が必要となっており、その際に防災機能に着目することも考えられる。こうした状況から、阪神・淡路大震災などの過去の災害を教訓として、都市公園の防災機能に関して様々な研究、取り組みがなされてきたこれまでの知見を再度確認整理し、今後の公園整備のため、防災機能に着目して身近な公園の整備や既存の身近な公園の有効活用を図ることを目的として調査研究を行った。

概要

市民にとって関心の高い「身近な公園の防災機能」について検討を深めるため、1) 公園緑地のもつ防災機能の整理、2) 地域防災計画における都市公園等の位置づけの把握、3) 阪神・淡路大震災直後の公園利用状況、4) 阪神・淡路大震災後の区画整理事業等に伴う公園緑地の整備・管理状況を把握し、ケーススタディによる検討をおこなった。最後に身近な公園における防災機能向上のための方向性と課題を取りまとめた。

結果

1.公園緑地の持つ防災機能の整理

これまでの「地震災害」、「津波災害」、「都市型大火」、の概要と特徴、災害時に公園緑地が果たした役割、復興計画の要点や、その中での公園緑地の位置付け等について、既往資料にもとづく把握を行った。

2.地域防災計画における都市公園等の位置づけの把握

平成24年度調査結果を用いて、共同調査参加都市の地域防災計画における都市公園の位置付けについて把握するとともに、公園緑地部局が独自の計画として防災施設の整備・設置や既存公園の防災リニューアルを含めた計画を持っている例として、東京都墨田区の『墨田区公園マスタープラン』（H22年11月策定）の例を引用整理した。

3.防災広場の事例

都市公園以外の事業制度に基づく、防災目的の小規模空地（防災広場）について、それらの地域防災計画における位置付け、用地取得や管理体制の特徴等を既往資料ならびにヒアリングによって把握した。

4.阪神・淡路大震災直後の公園利用状況

阪神・淡路大震災における公園緑地の利用状況について、既往資料により0.1ha未満、0.05ha未満といった小規模で身近な公園の利用状況に着目した状況分析をおこなった。

5.阪神・淡路大震災後の区画整理事業等に伴う公園緑地の整備・管理状況

神戸市の震災復興土地区画整理事業において整備された都市公園、ポケットパーク、コミュニティ道路などのオープンスペースについて、日々の管理にあたる市民（管理会関係者）へのヒアリングを実施し、防災活用を目的とする施設の整備や管理に関する知見・課題の把握を行った。

6.ケーススタディ

発災直後の緊急避難・一時集合や救援活動の場として必要な小規模な公園の規模、配置などについて、実際の市街地を例として考察を加えるため、横浜市の木造住宅の多い密集市街地である西区西戸部町周辺地区をモデルとして避難圏域、避難可能人口、防火水槽配置の状況の分析を行い、本地区における必要な小規模公園の規模、配置の検討を行った。

7.今後の課題

身近な公園における防災機能向上のための方向性と課題として、

- ・身近な防災活動拠点の機能を有する都市公園の役割等の再整理
- ・防災関連施設の整備・設置の方向性
- ・身近な公園等における防災機能を高めていくための管理運営の方向性
- ・身近な公園づくりと総合的なまちの防災力向上の方向性

についてとりまとめた。

調査結果の反映等

キーワード

防災公園、地域防災計画、阪神・淡路大震災、身近な公園

事例公園等

大阪市（まちかど広場）、足立区関原 1 丁目地区（プチテラス等）、世田谷区太子堂 2・3 丁目地区（身近な広場等）、豊島区東池袋 4・5 丁目地区（辻広場）、神戸市（まちなか防災空地）
六甲道北公園ほか（六甲道駅北地区）、水笠通公園（新長田駅北地区 新長田駅北エリア）、若松鷹取公園、海運双子池公園および大国公園（鷹取東第一地区）